



残留塩素測定器(比色法)

NK-20PH・NK-20DPD

取扱説明書

このたびは、ニットー残留塩素測定器をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。

この取扱説明書には、DPD法による残留塩素濃度測定又は水素イオン濃度の測定方法、及び取り扱い等について説明しております。(NK-20DPDは残留塩素濃度測定のみ) ご熟読いただき、確実な測定による水質管理を行っていただくようお願い申し上げます。

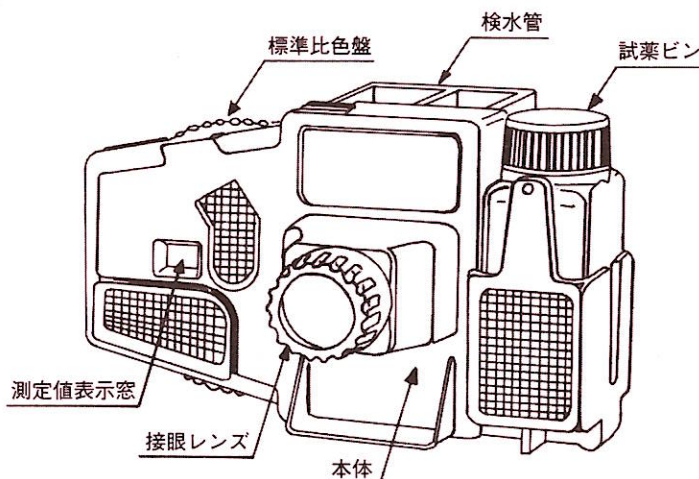
■特 長

1. ワンタッチで比色盤の交換が出来、測定器本体は1台で比色盤を差し替えることにより残留塩素濃度や水素イオン濃度(pH)の測定が出来ます。
2. 比色盤は、色あせしない特殊樹脂製で、破損せず正確な測定が出来ます。
3. 一眼プリズム方式ですから、比色し易く正確です。
4. 携帯に便利なコンパクト設計のため、野外や現場等においても取り扱いが簡単でどなたにでも使えます。

■測定方法

1. 残留塩素濃度(0.1ppm~2.0ppm)又は水素イオン濃度(pH5.8~pH7.6)標準比色盤を数字が表示してある方を手前にして本体へ差し込みます。
2. 検水管に、表示してある10ccラインまで、左右に試験水を入れます。
3. 【遊離残留塩素濃度測定】
向かって右側の試験水の上に、DPD試薬(粉末)を加え振り混ぜます。
(左側の試験水は標準色の補正用ですから試薬は入れません。)
【水素イオン濃度測定】
向かって右側の試験水の上に、BTB試薬をスポイトで4~5滴(0.3~0.5ml)滴下し、かるく振り混ぜます。
4. 試薬とよく混和させて発色させた後、本体へセットします。
(DPD試薬は、完全に溶解せず沈澱する事がありますが測定には支障ありません。)
5. 直ちに測定器を明るい方向に向けて接眼レンズをのぞき、左右の円形部分の色の濃さ(pHの場合は色調)が同じになるよう、標準比色盤を回転させます。試験水の色の濃さ(pHは色調)と標準比色盤の色の濃さが一致したとき、左手の表示窓に表示された数字が測定値です。
6. 測定が終わりましたら、検水管をきれいに洗浄して下さい。

■各部名称



■測定範囲

測定項目	測定範囲	試薬名	試薬使用量
残留塩素濃度 (ppm)	0.1~2.0	DPD試薬(粉末)	1袋
水素イオン濃度 (pH)	5.8~7.6	BTB液	4~5滴 (0.3~0.5ml)

注：水素イオン濃度 (pH) 測定時、試験水によっては発色しにくい場合があります。
その時は試薬を数滴多めに入れて下さい。

■構成部品

各セットには、下記の付属品が入っております。ご確認下さい。

NK-20PH

残留塩素濃度・水素イオン濃度測定用	
本体	1台
残留塩素濃度標準比色盤 (0.1, 0.2, 0.3, 0.4, 0.5, 0.6, 0.8, 1.0, 1.5, 2.0 ppm)	1枚
水素イオン濃度標準比色盤 (pH 5.8, 6.0, 6.2, 6.4, 6.6, 6.8, 7.0, 7.2, 7.4, 7.6)	1枚
DPD法試薬 (分包タイプ)	50包
pH試薬・BTB液30ml (スポイト瓶入り)	1瓶
検水管 (プラスチック製)	2個

NK-20DPD

残留塩素測定用	
本体	1台
残留塩素濃度標準比色盤 (0.1, 0.2, 0.3, 0.4, 0.5, 0.6, 0.8, 1.0, 1.5, 2.0 ppm)	1枚
DPD法試薬 (分包タイプ)	50包
検水管 (プラスチック製)	2個

◎別売品として、DPD試薬、BTB液、標準比色盤を販売しております。

■用途

[遊離残留塩素濃度の測定]

- ・水道水、井戸水、清涼飲料水、クーリングタワー等の残留塩素濃度測定。
- ・学校、公・私設プール、ホテルプール等の残留塩素濃度測定。
- ・次亜塩素酸ソーダ、塩素剤等の力価検定。(塩素含有量)
- ・浄化槽放流水の残留塩素濃度測定。
- ・除鉄、除マンガン、有機物除去、廃水処理等、工場の用水、排水の残留塩素濃度測定。

■注意事項

1. 標準比色盤を直射日光や高温にさらすことは、絶対に避けて下さい。
2. 正確な測定値を得るために、検水管や標準比色盤は常に清潔に保って下さい。
3. 試薬は、必ず専用試薬を使用し、冷暗所に保存して下さい。試薬の有効期間は、ほぼ1シーズンです。(古くなった試薬の使用は、測定誤差の原因になります。)
4. 試薬瓶のキャップ・スポイトは、試薬別に御使用下さい。また、測定後は、試薬瓶のキャップをしっかり締めて保管して下さい。
5. 通常の使用においてほとんど危険性はありませんが、液が目や口に入らないよう注意し、使用後は手をよく洗って下さい。



日陶科学株式会社

本 社 〒461-0025 名古屋市中区徳川二丁目18番3号
電話 (052)935-8976(代) FAX.GⅢ(052)935-5283(代)
東京支店 〒176-0004 東京都練馬区小竹町二丁目53番2号
電話 (03)3974-8931(代) FAX.GⅢ(03)3974-8947